

令和 7 年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名	所 属	職 名
	瀬ノ口 隆文	糖尿病・代謝・内分泌内科	准教授
グループ全員 (記入欄が不足する場合、 別紙に記入)	窪田 直人	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授・センター長
	岩槻 政晃	消化器外科	教授・副センター長
	井田 智	消化器外科	講師
	井形 元維	糖尿病・代謝・内分泌内科	助教
	(別紙に続く)		
活動テーマ	「肥満症診療記録手帳」の作成と効果的運用		
助成金額	500,000円	助成金使用総額	499,250円
【使用内訳】			
費目	金額 (円)	品名 (内訳)	備考
消耗品	159,500	キャリングケース	
	115,500	リングファイルフォルダ	
	14,960	クリアファイル	
備 品	43,890	スチール棚	ファイル・資料管理用
	5,500	スチール棚送料	外来に設置
その他	73,700	診療パンフレット印刷	
	46,200	治療経過表印刷	
	40,000	図書費	肥満症対策ガイドブック
合 計	499,250		

成 果 （※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度）

本活動では肥満症診療に関わる資料、記録をまとめて管理する「肥満症診療記録手帳」を作成し、本手帳を患者自身が所持するPersonal Health Record (PHR)として、また、医療スタッフにとっては診療の均一化、効率化を図る情報共有のツールとして活用することを目的とした。

手帳はA4 リングフォルダにあらかじめ必要な資料、文書を綴じ、診療ごとに検査結果等の記録を追加してゆけるようにした。患者の個人情報に配慮し、不透過のポートフォリオキャリングケースにフォルダを入れ診察時に持ち運べるように工夫した（別紙 参考画像）。これまでまとめて管理されることのなかった血液検査結果、栄養指導記録、体組成測定結果、画像検査結果などをファイルに綴り、かかりつけ医など他院での資料も一緒に綴ってもらうことで、診察時に患者とともに経過を振り返ることができ、情報の共有、診察の効率化の点で有用であった。特に、医師による診療、看護師による療養指導、管理栄養士による栄養指導の各場面において同一の資料を参照できることは、多職種間での共通認識の形成、ならびに患者への一貫した説明に寄与するものと考ええる。一方で、荷物が増えるなどの理由から、診察時にファイルを持参しない患者もあり、持参率は6割程度と評価している。自宅での資料保管に加え、引き続き再診時のファイルの持参を促し、本手帳の有効な活用を進めてゆきたい。

肥満症治療は患者自身の生活習慣に関わる行動変容が重要であり、また肥満症の薬物治療、外科治療はガイドラインに則った治療計画に基づいて行う必要がある。患者自身が治療計画を把握し、経過を振り返りながら治療を行うことをサポートする本手帳は、「患者本位の医療の実践」を謳う大学病院の理念に合致する取り組みであり、利用者の治療に対する意識の向上に寄与した。一方で、肥満症や肥満症治療についての医療スタッフへの周知が十分に行き届いていないことも実感しており、本課題で導入した資料・ガイドブックを活用した手帳の利用により、「医療人育成」の点において医療スタッフの理解が進み、院内の肥満症診療の推進、均てん化につながることを期待する。今後は、携帯性の課題に対して簡略版の作成やサイズ・構成の見直しを検討するとともに、利用者および医療スタッフを対象としたアンケート調査を実施し、本取り組みのさらなる発展を図りたい。

【グループ全員の氏名・所属・職名（続き）】

氏名	所 属	職 名
藤本 昌史	麻酔科	助教
江藤 弘二郎	消化器外科	助教
三島 裕子	栄養管理部	副部長
廣瀬 結衣	栄養管理部	管理栄養士
一美 奈緒子	心理支援センター	特任助教
石村 あさみ	看護部	外来Dブロック看護師
廣瀬 真理子	看護部	西9看護師長
嶋村 梨紗	リハビリテーション部	理学療法士
山下 諒祐	薬剤部	薬剤師



参考：診療の資料一式、および、資料を綴じるリングフォルダと
ポートフォリオキャリングケース